

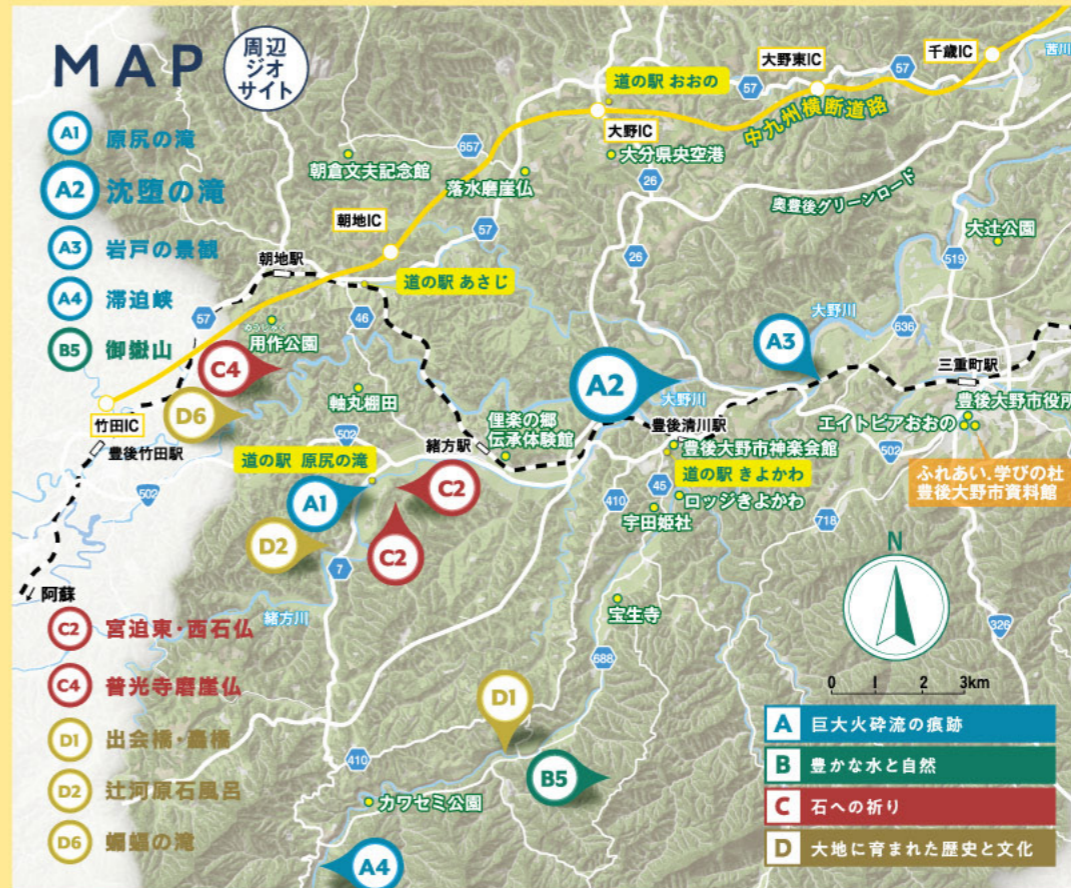
# 沈墮の滝

CHINDA FALLS / OONO



持って、歩いて、ひもとこう。

おおいた豊後大野ジオパーク  
Oita Bungoono Geopark



## 周辺情報



**道の駅 おおの**  
大分県豊後大野市大野町中43-10  
TEL 0974-34-3231 82台  
9:00~18:00  
手作りまんじゅうや野菜等が豊富に揃う。レストランでは地鶏「豊のしゃも」を使ったバリエーション豊かなメニューが並ぶ。

おおいた豊後大野ジオパーク推進協議会 <http://bungo-ohno.com>  
〒879-7198 大分県豊後大野市三重町市場 1200 番地 豊後大野市商工観光課内  
TEL 0974-22-1001 (代表) FAX 0974-22-3361

おおいた豊後大野ジオパークガイド  
TEL.080-2708-7809



流れと歴史が  
交錯する場所。

## 豊後大野ジオサイトファイル

# 沈墮の滝

沈墮の滝は、大野川本流にある「雄滝」と大野川の支流である平井川にある「雌滝」の2つの滝によって構成されています。雄滝は幅100m、高さ20m、雌滝は幅10m高さ18mあり、この本流と支流のぶつかりが滝を生んだと言われています。この滝は、今から約600年ほど前に活躍した「雪舟」により水墨画として描かれ、江戸時代の地誌「豊後国志」にも記載されています。「垂直分かれて十三条をなす」と表された滝の流れは、人の手が入ることです。実際に数奇な運命をたどり現在に至っています。



# 阿蘇の大噴火に生まれ、近代化に活用されて。

沈墮の滝を形成している岩石は、阿蘇火山の約9万年前の大噴火による火砕流によってもたらされたものです。この阿蘇から流れてきた火砕流が冷えて固まったものが、溶結凝灰岩と呼ばれています。冷え固まる際に入った無数のひび割れが垂直方向に伸び、柱のように見えることから柱状節理と言い、この柱状節理が連続して織りなす美しい渓谷が豊後大野の地に創られました。柱状節理が見られる岩は縦方向に崩れやすいため、垂直な崖を形成したのです。これは、豊後大野ジオパークにおける特徴的な景観の一つとなっています。

でも、それをまた人の手によって滝に戻されたんだね。

自然にできた岩を活用したのはいいけど、一時は滝ではなくなってたんだって。

ジオガイドさん

## 1 大野川通船と魚道跡

江戸時代の頃、大野川を利用して船で人や荷をさかんに運んでいましたが、この滝を船で越えることができず、滝の上と下で違う船に人や荷を積み替えていました。同じように魚も滝を越えることができず、アユなどの回遊魚はここより上流には登れませんでした。そこで、大正2年にトンネルの魚道と魚架を設置することで滝の上流と下流をつなぎ、アユをさかのぼらせることに成功しました。

黄色い線の部分が魚道だったと考えられる



## 2 沈墮発電所跡

この沈墮の滝では、滝の落差を利用して、発電が行われています。明治42年(1909年)、滝の上に堰を作り、発電をはじめました。電気は大分、別府間の路面電車に送られ、日本の近代化に役立てられました。その後、堰の高さはさらに上げられ、安定した電力の確保が実現しましたが、一方で、

電力の確保と引き換えに落水しなくなったことで、鎮田瀑図に見られるような美しい景観を失ったのです。

※現在の発電所は2kmほど下流に移されています。



旧発電所操業時

## 修景工事

地域の方々はこの滝の復活を切に願っていました。

ただの岩壁と化していた滝は、平成8年、ついに復活。九州電力の手により崖がこれ以上崩落しないよう大がかりな工事をし、さらに雪舟の描いた鎮田瀑図を参考に「垂直分かれて十三条をなす」となるよう修景工事を行ったのです。



落水のない頃の沈墮の滝

発電用水放水口

足元注意

カメラポイント  
表紙の写真はここから撮影したものです。

カメラポイント  
沈墮発電所跡と雄滝を一望できます。

駐車場

トイレ

大型バス駐車場

平井川

雌滝

約600年前に描かれたという水墨画とどこが違うのかな?

巨匠が描いた名瀑



雪舟画「鎮田瀑図」(複製)豊後大野市大野支所蔵

ポケットパーク